

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	知立市立ひまわり園		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 23
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士・公認心理士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・児童指導員といった専門職が療育・支援に関わっています。	・一人ひとりのアセスメントを各専門職の多角的視点で行っています。 ・各専門職の助言等を参考に、職員間で話し合い支援計画をたてています。	・保護者の意向を把握した上で、専門職が療育、支援に関わっていき、保護者へのフィードバックを丁寧に行っています。 ・毎月のケース会議において、専門職との連携を図り、より良い支援を行っています。
2	・こどもの姿について、保護者の方と共有し個別支援計画の作成を行い、必要に応じて確認しながら支援目標の設定を行っています。	・登園時に保護者の方からお子さんの様子を聞いたり、降園時には園での様子を伝え、共通理解できるよう丁寧な説明や聞き取りを行っています。	・保護者の方との情報の共有とともに、職員間での共通理解に努め、適切な支援につなげていきます。
3	・職員の質の向上を図るために、様々な研修会を行っています。	・業務時間内に研修があるので、多くのスタッフが参加することができるようにしています。 ・近隣市の児童発達支援センターへの実習、外部研修の参加をしています。	・研修の計画時には、職員が課題と感じていることを取り入れるよう、アンケートなどの調査を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用児と地域との交流機会、きょうだい児支援の機会がありません。	・「本人支援」「家族支援」中心に療育内容を考えてきたため「地域連携・地域交流」についての取組みが十分ではなかった考えます。	・日頃の療育内容を生かせるような交流の方法を検討していきます。 ・行事の時間帯や方法について工夫することで、きょうだい児の行事参加を検討していきます。
2	・保護者の方への緊急時(災害時等)の対応について、周知が十分にできておりません。	・入園式の説明に留まっているため、周知の方法等検討していく必要があります。	・災害時の引き渡し訓練をはじめ、緊急時への意識を保護者の方たちにも持っていただけるよう、入園式以降も繰り返し伝える機会や方法について検討していきます。
3			